

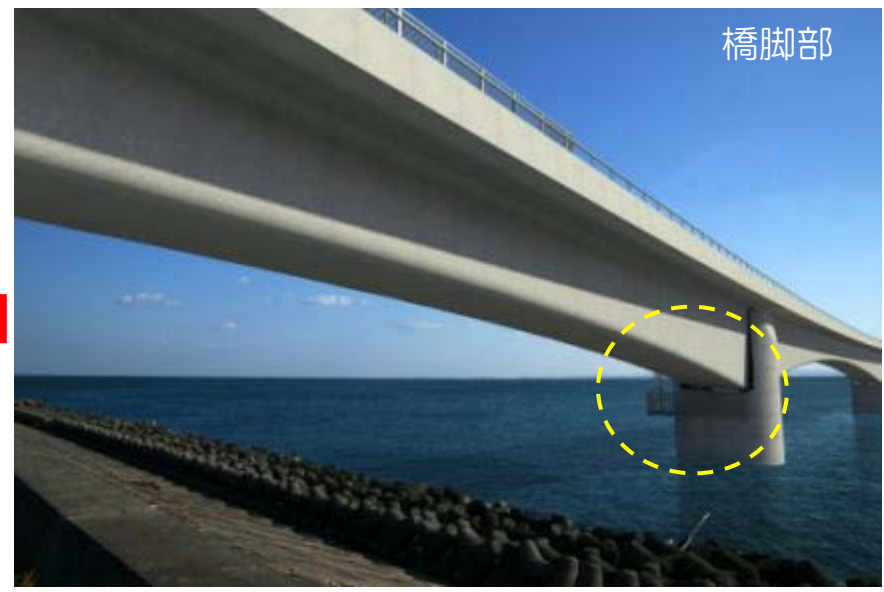
■⑤-4 付属物の配慮についての検討

○検査路設置についての検討

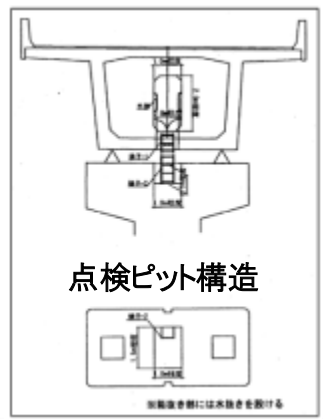
標準案として採用

検査路無し

検査路有り



橋梁の点検に必要な検査路は、極力外部に設置しない方針とし、代わりに検査ピット等を採用することで、渡河橋のシンプルな外観を活かした構造とした。
 また、橋台部については、県道に対して背面に検査路を設置することで、煩雑さを軽減できたと考えられる。



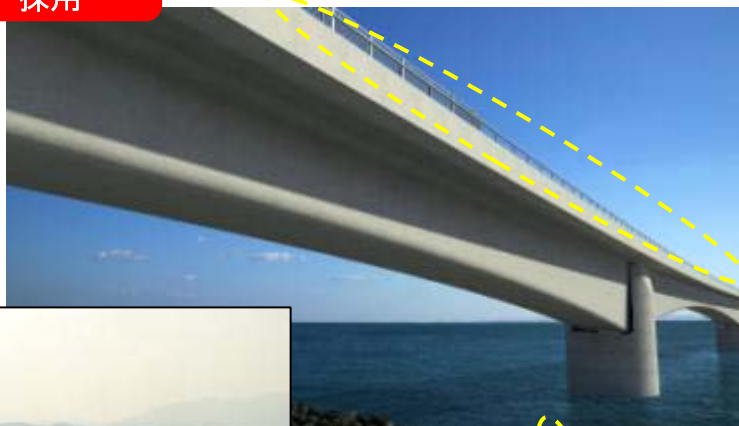
■⑤-4 付属物の配慮についての検討

○排水設備についての検討

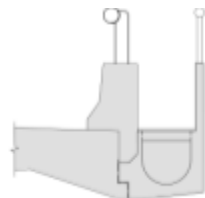
標準案として
採用

床板一体型排水溝

排水管



壁高欄の外側に床板一体型排水溝を設置



一般的な配水管は、写真の様に煩雑に見えることから、床板一体型排水溝を採用し、渡河橋のシンプルな外観が維持できたと考えられる。

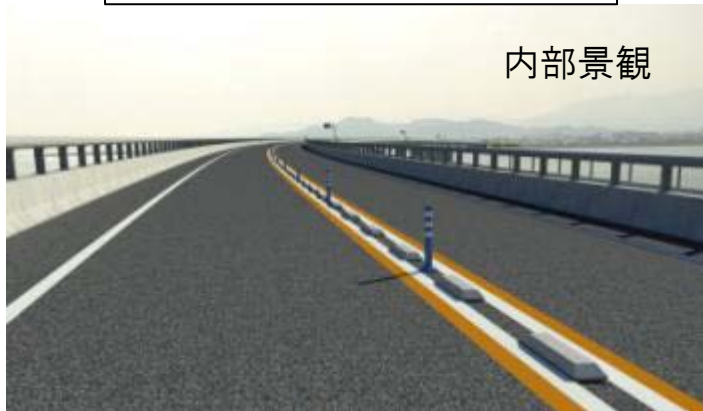
■⑤-5 付属物の配慮についての検討



○標識についての検討

左岸側（鳴門側）から望む

内部景観



右岸側（徳島市内側）から望む

内部景観



非常駐車帯への設置

内部景観



外部景観



標識を非常駐車体内（壁高欄内側）に設置することで、標識設置による外部景観への影響が軽減されたと考えられる